

わたしのお気に入り

理工学部外国語・総合教育教室 准教授 あらきふみか 荒本文果

『サウンド・オブ・ミュージック』の舞台として知られるザルツブルクを初めて訪れたのは、学部1年生の春休みだった。大学が企画するドイツ研修旅行に参加し、1週間の自由行動を活用して憧れのオーストリアへ向かったのである。「わたしのお気に入り」を口ずさみながら雪の残るミラベル庭園を歩いたときの澄みわたる青い空や深緑の木々、頬をかすめる冷たい風の感触を今も鮮明に思い出すことができる。ミュージカルに夢中だった当時の私は、次に訪れたウィーンで皇妃エリザベートゆかりの地をめぐり、皇太子ルドルフが最期を迎えたマイヤーリンク方面にも足を延ばして、ひとり喪に服したものである。このようなオタク気質が嵩じて、西洋美術史家になっ

てしまった。

研究をしていると、お気に入りリストにはいる作品や美術館がどんどん増えていく。昨年それに加わったのが、フランスのリール宮殿美術館にある《ヘロデの饗宴》である。初期ルネサンス期の天才彫刻家ドナテッロの浮彫りで、もともとはフイレンツェのメディチ邸にあったものだ。若きミケランジェロが、従来指摘されてきた以上に本作を徹底的に模倣したというのが持論であるが（拙論「ミケランジェロの『署名』——システーナ礼拝堂のイニユーディ」『神秘のアルストピア』ありな書房）、美術史は作品実見が鉄則、研究書での作品との出会いから3カ月後にはリールにいた。

美術館のなかでも特別な場所に展示されている本作は、図版で見ると一層繊細で、息をのむほどの美しさだった。作品横のボタンを押すと、照明が右から左へとゆるやかに移動し、それにともない、登場人物の表情が、作品の奥行きが、刻々と変化する。そのとき私の周囲は、一気に15世紀のメディチ邸となる。そして、窓からさしこむイタリヤの強い日差しや揺らめく蠟燭の灯によって七変化する浮彫りの美しさに、当時の人々、そしてミケランジェロとともに感嘆のため息をつくのである。

「お気に入り」は人生に彩りを添え、日々を豊かにしてくれる。皆さんの「お気に入り」は何ですか？



ドナテッロ《ヘロデの饗宴》1435年頃 リール宮殿美術館

談室

教員によるエッセイコーナー